

2019年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト事業 (地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)

成果報告書

2020年3月

高知県文化生活スポーツ部スポーツ課

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、高知県が実施した令和元年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

I	事業実施にあたっての「基本的な考え方」	1
	（1）事業実施の趣旨	
	（2）事業の実施体制	
	（3）実施体制図	
II	令和元年度事業実施日程	3
III	プロジェクト実行委員会	5
	（1）会議の目的	
	（2）検討事項	
	（3）実行委員会委員	
	（4）実行委員会の開催	
IV	実践研究	10
	（1）関係者が連携し、障害者スポーツの発表の場の活性化を促進する取組のモデルづくり	10
	（2）特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり （運動を希望する生徒をターゲットとした活性化モデル）	12
	（3）特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり （在校生や卒業生、障害者福祉施設入所者をターゲットとした活性化モデル）	19
	（4）地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり	35
V	成果と課題	48

【参考】

高知県障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会設置要綱

高知県障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会委員名簿

I 事業実施にあたっての「基本的な考え方」

(1) 事業実施の趣旨

本県の障害者のスポーツ活動の中心的な役割を担っている県立障害者スポーツセンターは、県中央部に位置しており、県東部や西部におけるスポーツ活動の支援には限界がある。また、それぞれの地域で根ざし重要な役割を担っている特別支援学校や市町村社会福祉協議会なども対象者が限定的であり、単独で動くことが多いことなどから、障害者のスポーツ活動に地域差が生じていたり、運動習慣の定着が十分でないといった課題がみられる。

これらの課題を踏まえ、平成28年度より地域における障害者スポーツ普及促進事業において、県障害者スポーツセンター・総合型地域スポーツクラブ・特別支援学校・市町村社会福祉協議会・各福祉施設など様々な団体が連携した取組を実践研究として行ってきた。

県西部での障害者陸上教室の実施や、総合型地域スポーツクラブが特別支援学校（主に知的障害）へアプローチする取組により、障害者のスポーツ活動の場の提供とともに、各関係団体の連携が生まれ深まりつつある。さらに、障害者とその保護者、また、障害者福祉施設入所者や職員等と総合型地域スポーツクラブスタッフや各競技団体スタッフ等との間に信頼関係が構築された。このことにより、総合型地域スポーツクラブに障害者が参加するバドミントンサークルが立ち上がったことや障害者福祉施設の職員が自主的に日常的なスポーツ活動を計画するなど大きな成果にもつながっている。

令和元年度は、これまでの各取組の課題の解決を図るとともに、特別支援学校とのさらなる連携を深めるため「新たな特別支援学校へのアプローチ」「新たな運動部活動（バレーボール等）への専門指導員（障がい者スポーツ指導員）の派遣」を実施することや、地域のスポーツ施設や障害者福祉施設での活動を増やすため「地域のスポーツ施設、総合型クラブ拠点体育館の活用」「地域の障害者福祉施設の空きスペースを活用したスポーツ教室」を実施する。また、障害者以外に対する障害者スポーツ体験会（車いすバスケットボール）を新たに取組むこととしている。

取組みの継続を見据えた全体のねらいとしては「障害者が身近な地域で安心してスポーツを楽しむことができる機会を提供するとともにネットワークの構築を図る」とし、障害者スポーツの普及・発展につなげることを目的とする。

<事業終了後>

既存事業と関連づけながら本事業での取組を継続、充実させ、その成果を県内に広く普及することにより、障害のある方が身近な地域で安心してスポーツを楽しむことができる機会を提供するとともに、関係者のネットワークの強化を図り、障害者のスポーツ参加の拡大と障害の有無に関わらず誰もが一緒に活動することができる共生社会の実現につなげる。

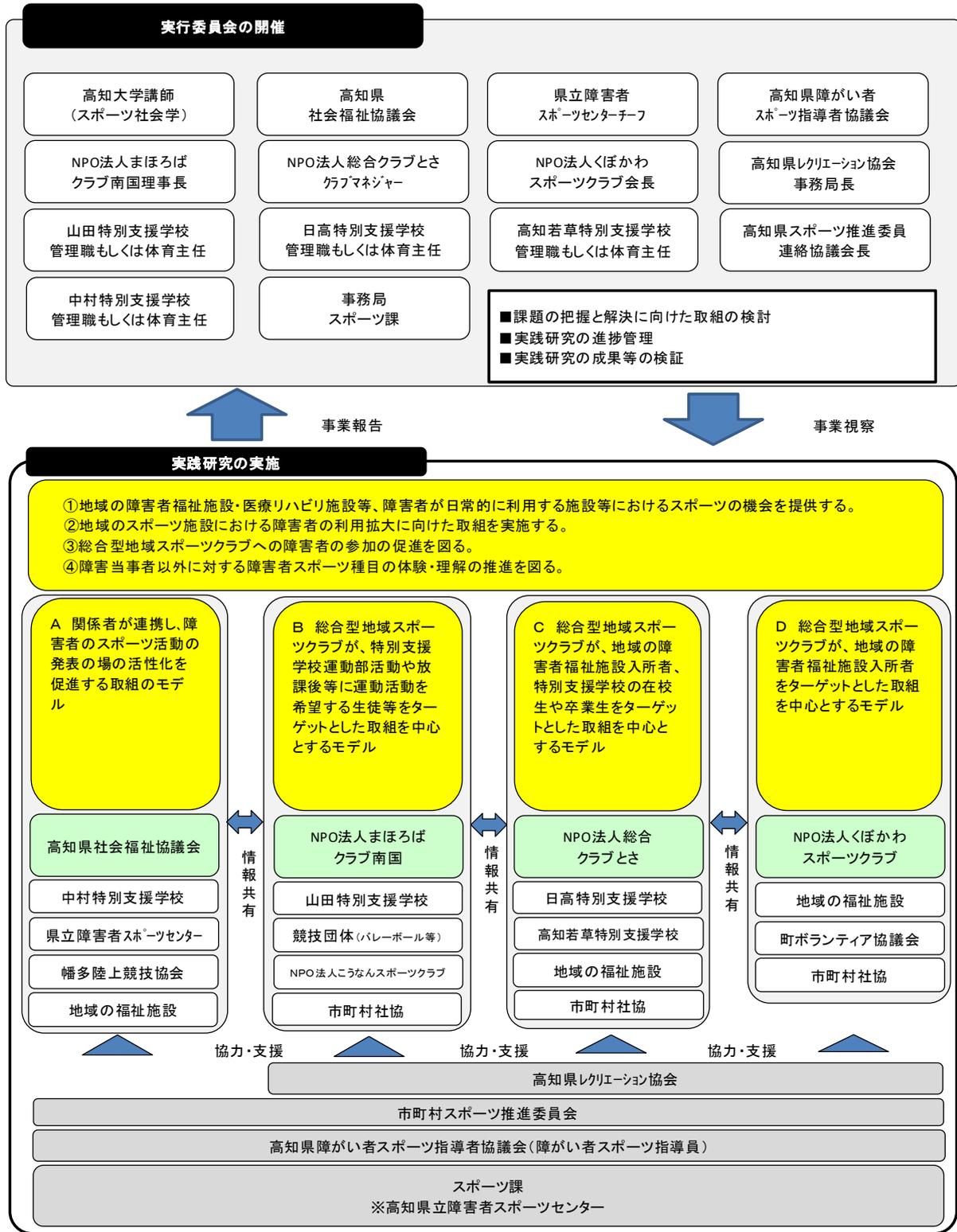
(2) 事業の実施体制

■高知県文化生活スポーツ部スポーツ課

統括責任者1名：実行委員会の調整・運営、実践研究担当者への指導 等

実践研究担当者2名：各実践研究のサポート

(3) 実施体制図



Ⅱ 令和元年度事業実施日程

実施月日	実施内容
令和元年 7 月 4 日	【とさ】 休日や放課後を活用した体験教室（シッティングバレー）①
令和元年 7 月 8 日	【事務局】 第 1 回障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会
令和元年 7 月 10 日	【まほろば】 第 1 回関係者検討会議
令和元年 7 月 11 日	【とさ】 休日や放課後を活用した体験教室（シッティングバレー）②
令和元年 7 月 18 日	【とさ】 第 1 回関係者検討会議
令和元年 7 月 22 日	【とさ】 P T A 行事を活用したスポーツ体験教室
令和元年 8 月 1 日	【くぼかわ】 第 1 回関係者検討会議
令和元年 8 月 18 日	【とさ】 同窓会を活用した体験教室
令和元年 8 月 25 日	【とさ】 卒業生の入所した福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（ターゲット等）
令和元年 9 月 4 日	【まほろば】 休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（フライングディスク）①
令和元年 9 月 5 日	【とさ】 休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（フライングディスク）①
令和元年 9 月 9 日	【まほろば】 日常的な運動部活動バレーボール等の専門指導者の派遣（陸上）①
令和元年 9 月 11 日	【まほろば】 休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（フライングディスク）②
令和元年 9 月 12 日	【まほろば】 日常的な運動部活動バレーボール等の専門指導者の派遣（陸上）②
令和元年 9 月 18 日	【県社協】 第 1 回関係者検討会議
令和元年 9 月 19 日	【まほろば】 日常的な運動部活動バレーボール等の専門指導者の派遣（陸上）③
令和元年 9 月 24 日	【とさ】 休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（フライングディスク）③
令和元年 10 月 2 日	【くぼかわ】 地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（ボッチャ）①
	【くぼかわ】 地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（ボッチャ）②
令和元年 10 月 11 日	【くぼかわ】 地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（ボッチャ）③
令和元年 10 月 19 日	【県社協】 障害者スポーツ大会（陸上競技）に向けた障害者陸上競技の開催（雨天中止）
	【まほろば】 多種目のスポーツ体験教室
令和元年 10 月 21 日	【くぼかわ】 地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（ボッチャ）④
令和元年 10 月 23 日	【くぼかわ】 地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（ボッチャ）⑤
	【くぼかわ】 地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（ボッチャ）⑥
令和元年 10 月 25 日	【くぼかわ】 地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（フライングディスク）①
令和元年 10 月 26 日	【県社協】 障害者スポーツ大会（陸上競技）に向けた障害者陸上競技の開催
令和元年 10 月 29 日	【県社協】 第 2 回関係者検討会議 運営会議
令和元年 10 月 30 日	【とさ】 卒業生の入所した福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（カボエウ）
令和元年 11 月 2 日	【県社協】 障害者スポーツ大会（陸上競技）の開催
令和元年 11 月 10 日	【くぼかわ】 地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（ボッチャ）⑦
令和元年 11 月 14 日	【県社協】 第 3 回関係者検討会議
令和元年 11 月 17 日	【まほろば】 日常的な運動部活動バレーボール等の専門指導者の派遣（バレーボール）①
令和元年 11 月 18 日	【まほろば】 日常的な運動部活動バレーボール等の専門指導者の派遣（バドミントン）①
令和元年 11 月 23 日	【とさ】 卒業生の入所した福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（体操等）
令和元年 11 月 25 日	【まほろば】 日常的な運動部活動バレーボール等の専門指導者の派遣（バドミントン）②

令和元年 11 月 28 日	【事務局】 第 2 回障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会
	【くぼかわ】 地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（ボッチャ）⑧
	【くぼかわ】 地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（フライングディスク）②
	【くぼかわ】 地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（フライングディスク）③
	【とさ】 第 2 回関係者検討会議
令和元年 12 月 3 日	【まほろば】 休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（サッカー）①
令和元年 12 月 5 日	【とさ】 休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（ダンス）①
令和元年 12 月 7 日	【くぼかわ】 障害者福祉施設入所者と地域住民と一緒に体験できるスポーツ交流大会
令和元年 12 月 9 日	【まほろば】 日常的な運動部活動バレーボール等の専門指導者の派遣（バドミントン）③
令和元年 12 月 12 日	【まほろば】 日常的な運動部活動バレーボール等の専門指導者の派遣（バドミントン）④
	【とさ】 休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（ダンス）②
令和元年 12 月 15 日	【まほろば】 日常的な運動部活動バレーボール等の専門指導者の派遣（バレーボール）②
令和元年 12 月 21 日	【とさ】 卒業生の入所した福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（輪投げ等）
令和 2 年 1 月 5 日	【とさ】 P T A 行事を活用したスポーツ体験教室
令和 2 年 1 月 15 日	【まほろば】 休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（サッカー）②
令和 2 年 1 月 16 日	【くぼかわ】 第 2 回関係者検討会議
令和 2 年 1 月 17 日	【まほろば】 第 2 回関係者検討会議
令和 2 年 1 月 19 日	【まほろば】 日常的な運動部活動バレーボール等の専門指導者の派遣（バレーボール）③
令和 2 年 1 月 21 日	【とさ】 休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（ボッチャ）
令和 2 年 1 月 22 日	【まほろば】 休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（サッカー）③
令和 2 年 1 月 25 日	【まほろば】 交流バドミントン大会
令和 2 年 1 月 29 日	【とさ】 卒業生の入所した福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（体操等）
令和 2 年 2 月 9 日	【とさ】 障害当事者以外に対する障害者スポーツ体験教室（車いすバスケットボール）
令和 2 年 2 月 11 日	【とさ】 卒業生の入所した福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（ボッチャ等）
令和 2 年 2 月 18 日	【とさ】 卒業生の入所した福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（3 B 体操等）
令和 2 年 2 月 19 日	【とさ】 第 3 回関係者検討会議
	【とさ】 卒業生の入所した福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（ボッチャ等）
令和 2 年 2 月 21 日	【まほろば】 第 3 回関係者検討会議
令和 2 年 2 月 22 日	【とさ】 卒業生の入所した福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（ボッチャ等）
令和 2 年 2 月 26 日	【くぼかわ】 各種目体験教室発表会（四万十町ボッチャ大会）
令和 2 年 2 月 28 日	【くぼかわ】 第 3 回関係者検討会議（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
令和 2 年 3 月 5 日	【事務局】 第 3 回障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

Ⅲ 障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会

(1) 会議の目的

実践研究をより効果的に実施し、障害者スポーツの普及モデルとして着実に成果を残すため、スポーツ関係者や福祉関係者、学識経験者などで構成する実行委員会を開催し、実践研究の進捗管理、事業内容の検証等を行うとともに、その成果を広く普及する。

(2) 検討事項

- ①実践研究の進捗管理
- ②実践研究の内容、成果等の検討・検証
- ③実践研究の成果を踏まえた普及促進プログラムの作成

(3) 実行委員会委員（11人）

- 高知大学講師 1人
- 県社会福祉協議会 1人
- 総合型地域スポーツクラブ関係者 3人
- 学校関係者 4人
- 県スポーツ推進委員連絡協議会 1人
- 県レクリエーション協会 1人

(4) 実行委員会の開催

会議名	日付	内容
第1回実行委員会	令和元年7月8日	事業内容について 意見交換
第2回実行委員会	令和元年12月9日	進捗状況について 意見交換
第3回実行委員会	令和2年3月5日 (新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止)	

障害者スポーツ推進プロジェクト 第1回実行委員会

■実施団体より事業概要説明

○高知県社会福祉協議会の取り組みについて

- ・地域での陸上記録会及び陸上教室の開催を希望している。
- ・取り組みに卒業生が参加しやすいような配慮が必要である。

○まほろばクラブ南国の取り組みについて

- ・特別支援学校への運動部活動に向けての指導者の支援を行う。
- ・放課後にスポーツ体験（サッカー、フットサル、フライングディスク等）の実施を考えている。

○クラブとさの取り組みについて

- ・P T A行事と同窓会にスポーツ体験教室を取り入れたい。
- ・特別支援学校の卒業生も参加しやすいように配慮する。

■意見交換

- ・クラブとさの車いすバスケットボール体験教室は土曜日の午後実施の予定である。
- ・事業の中で健常者と一緒に活動するとなると、障害者の方がなかなか入りにくいという事が起こっており配慮が必要である。今共生社会ということで障害のある方もない方も一緒にやっていくというのが理想の姿だが、まだまだ理解が深まっておらず、垣根を取り除く手立てが必要である。
- ・ポッチャ競技については、事業を展開している総合型地域スポーツクラブを通じて、小学校の取組につながった。
- ・課題としては、事業所での取組は時間設定が難しい。また、通所の場合には通所施設の作業時間との兼ね合いが必要であり、施設側の協力が不可欠である。
- ・各取組やスポーツ活動への参加については、学校単位でなく、総合型地域スポーツクラブ等が取りまとめて参加する可能性について、今後検討が必要である。
- ・参加者が増えない理由として、誘い合ったりするネットワークなど、気軽に参加できる体制が出来ていないと感じる。
- ・参加者を増やすには、保護者の意識を変える事も必要である。
- ・障害者スポーツの普及には高価な競技用具の購入がネックになっている場合がある。
- ・W e bサイトを今年立ち上げる予定だが、ネットワークの中で情報ができるだけ共有されるような発信の仕方、共有の仕方を考えなければいけない。

障害者スポーツ推進プロジェクト 第2回実行委員会

■進捗状況報告と意見交換

○高知県社会福祉協議会の取組について

- ・関係者検討会議は、事前準備の打ち合わせを2回、事後の反省会を1回行った。
- ・陸上競技記録会（11月2日）を実施し、116名の参加があった。
- ・陸上教室について、佐賀駅からバスの送迎を行った。
- ・山田特別支援学校生徒の送迎を南国まほろばクラブが担ってくれた。
- ・情報発信のツールとして、障害者スポーツセンターのスポーツ情報がWeb上で閲覧できるSNSへの登録（QRコードによる読み込み）のチラシを作成した。
- ・陸上教室実施に際し、高知市内から指導者が向かうだけでなく、幡多地区陸上競技協会へも協力を依頼し、共同で開催できる体制が徐々にできはじめている。
- ・新たな取組として、個人申込の方（学校引率のない卒業生等）へ対応するコーディネーターを3名配置した。招集、スタート地点までの移動、試技後の待機位置までの案内など、参加者一人では困る場面に3名のコーディネーターが対応し、参加者からは安心できたという声があった。参加の呼びかけに加え、当日安心して参加できる環境づくりとして一歩前進できた取組であった。
- ・幡多地区陸上競技協会の負担軽減に対する取組の一つとして、中村高校陸上部のOB（支援学校教諭など）の協力（リレーに参加しながら役員としても協力）があり、来年度以降も続けていきたい。
- ・送迎について、南国まほろばクラブ（山田特別支援学校の送迎）、四国アイランドリーグの高知ファイティングドックスの協力（日高特別支援学校の送迎）など、支援の輪の広がりを感じる。
- ・継続的な事業にしていくため、地元のスポーツ推進委員の協力を仰いでいる。記録会当日は宿毛まつりと日程が重なったが、4名のスポーツ推進委員が協力してくれた。次年度は、幡多地域でスポーツ推進委員を対象に初級の障がい者スポーツ指導者養成講習会を実施したい。
- ・スラロームの参加者が3名から6名に倍増した。地道な声掛けの成果であった。
- ・宿毛市のケーブルテレビに取材を依頼し、市では現在、大会の様子が放送されている。報道の可否を申込上で把握できるようにし、当日はゼッケンで区別することで体制を整えた。
- ・まほろばクラブのバスの協力については、山田特別支援学校の管理職との理解で実現した。事故があったときの規定等、今後の理事会で方向性を決めていきたい。
- ・スポーツ推進委員を対象に実施する初級障がい者スポーツ指導者養成講習会は、今年度中に各市町村のスポーツ推進委員の事務局に回って依頼したいと考えている。各市町村に最低でも資格取得者を2人ずつ配置できることを目指していきたい。

○まほろばクラブ南国の取り組みについて

- ・山田特別支援学校運動部活動への専門指導者の派遣について、今年度は新たに陸上部とバレーボール部に指導者を派遣した。
- ・放課後を利用したフライングディスク教室は、大会に向けてうまく活用できた練習機会となった。
- ・サッカー教室について、寄宿舎の行事と重なり参加者は少なかったが、指導者と生徒で良い交流が図れていた。
- ・卒業後もバレーボール部の練習に参加している卒業生について、以前は保護者が子どもの障害を周囲に隠していたが、県障害者スポーツ大会で優勝し新聞に掲載されたことにより、近所からもあたたかい言葉をかけられるようになったことで、保護者の考え方が変容し、周囲に障害を隠すことがなくなった。それからは、バレーボール部に所属し現在も継続することで、香美市で表彰されるなど活躍している。このような事例が増えれば良いと考える。
- ・移動手段があっても知らない活動（場所や人）に対する不安から参加者が増えない課題に対して、今年は夏休みのP T A行事に武市委員を招き、バーベキューや水泳指導を通して交流を図れたことにより、まほろばと保護者との関係づくりのきっかけとなった。そのつながりからまほろばクラブの水泳教室へも参加者があった。

○クラブとさの取り組みについて

- ・日高特別支援学校のP T A行事の活動を2回計画している。2回目は土佐市民体育館へ出てきてもらい、カポエイラ、ヨガ、ニュースポーツ、親子バドミントンなどの活動できるように計画している。
- ・2月9日に、車いすバスケ、ボッチャ、卓球バレーなど障害者スポーツの体験教室を実施予定である。午後は他事業のバドミントン教室の大会を予定しており、そこへ日高特別支援学校の生徒も案内できるように計画している。
- ・福祉施設の事業では、ニュースポーツを中心にカポエイラなどの新しい種目も加えて好評を得ることができた。
- ・ひまわり舎では、昨年の事業で実施した3 B体操が大好評であり、本事業から離れて独自に3 B体操が継続されている。
- ・幡多地域の陸上大会へ高知市の若草特別支援学校からも出場しており、大会の広がりを感じている。大会参加に当たっては個人で申し込む体制であったため、学校としての支援体制を見直すことが課題である。

○くぼかわスポーツクラブの取り組みについて

- ・四万十ふくふくまつりでは、講演やパラスポーツの紹介、6～7種目のパラスポーツ体験教室を実施し、充実したイベントとなった。
- ・障害者スポーツ推進プロジェクトによって、地域の障害者がスポーツに興味を持ち競技に親しむことができている。総合型地域スポーツクラブでも、障害者のスポーツ機会を提供できるよう企画していく必要性を感じる。

- ・体験教室等の情報が届いていない地域もあったため、情報提供の方法については今後の課題である。
- ・現在、健常者も障害者も参加できる町内ポッチャ大会を計画している。
- ・中村特別支援学校の生徒が現場実習でお世話になっている福祉施設が多い。様々な教室を実施しているので、学校でも広く呼び掛けたい。チラシをいただけたら家庭へ配布し教室を案内することができ、地域との繋がりづくりにもなる。
- ・来年度は、外部の方にも積極的に陸上教室等へ参加していただければと考えている。外部の人が入ることで教員にとっても刺激となり、地域との繋がりも形成される。

■意見交換

- ・卒業生に対して電子メール等での案内を行いたい。
- ・広報について、市町村等にお問い合わせしなかったことが課題としてあげられる。
- ・各市町村の状況として、スポーツ関連はほぼ生涯学習課が担当しているが、障害者スポーツに取り組んでいる例は少ない。今後の情報提供・共有など、社協とのつながりが必要である。
- ・市町村の社協の事務局は人員不足の現状があるため、スポーツ分野までは難しいかもしれない。市町村の福祉部局との連携が重要だと考える。
- ・複数の大会を同日に実施することで負担軽減できるような仕組みも大切ではないか。市町村単位での情報共有が必要だと感じる。
- ・キーパーソンとなるような人物として、時間の調整ができる、事務能力のある、熱意のある人の掘り起こしが必要がある。具体的には保護者、教員など、実際に障害者と接していて、常に課題を感じとれる人が良いと考える。
- ・記録会に限らず幡多地域の障害者スポーツの推進については、ある一定、発表の場ができており、幡多地区陸上大会、フライングディスク大会、龍馬マラソンファンラン、県障害者スポーツ大会など、以前に比べ選択肢が増えてきたとの意見があった。

IV 実践研究

関係者が連携し、障害者スポーツの発表の場の活性化を促進する取組のモデルづくり			
実施団体		(社福) 高知県社会福祉協議会	
取組の名称	県西部の障害者陸上教室の開催		
目的	記録会に向けたトレーニング方法や技術を学ぶ機会として教室を実施。昨年度は事後教室も設けたが、現状では継続した活動が困難なことから本年度は記録会に向けた教室と目的を絞って実施。		
取組写真			
関連機関等	中村特別支援学校		
取組内容 種目・指導者等	障害の程度に関わりなく、誰でも比較的参加しやすく、日常生活での健康づくりにもつながりやすい事から陸上競技の教室を開催する。また、指導は特別支援学校教員で陸上経験者をお願いをした。		
実施期日	対象者	参加人数	計
2019年10月26日(土)	四万十市周辺在住の障害者	10人	10人
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> ①参加しやすい運営の工夫 ②支える人材(スタッフ)の確保 ③継続した取組になるための工夫 		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ①卒業生が集いやすい支援学校を会場に開催 ②特別支援学校教員に依頼 ③現状では継続活動が期待できる状況ではない。 		
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通手段の脆弱な地域で、支援学校のグラウンドを借用しての教室は、近隣に在住する卒業生が自転車や徒歩で集うことができ、参加しやすいというテーマが一つクリアできた。 ○講師に支援学校の先生に入って頂く事で、教室から記録会へ向け学校側と良い関係性(情報共有)で進めて行く事ができた。 ●継続した取組には受け皿とともに核となる人材の存在が重要であり、他の事業と連携しながらそのような環境を作る準備は行っているが、一朝一夕でできることではなく、経年的に行っていく必要がある。 		
取組の評価	参加者は記録会に向けモチベーションが大きく上がったことから、教室実施の効果はあった。		

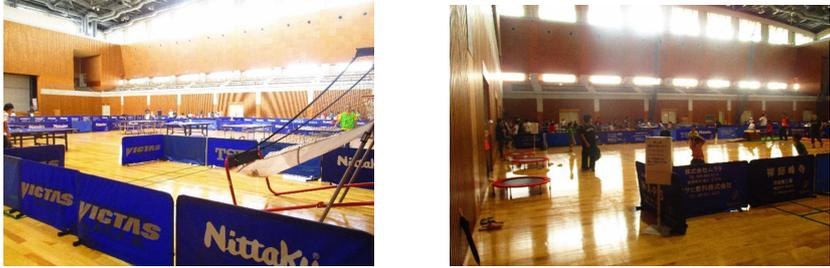
関係者が連携し、障害者スポーツの発表の場の活性化を促進する取組のモデルづくり			
実施団体		(社福) 高知県社会福祉協議会	
取組の名称	県西部での障害者陸上記録会の開催		
目的	高知県西部地域での障害者スポーツの普及振興を目的とする。		
取組写真			
関連機関等	幡多地区陸上競技協会、宿毛市社会福祉協議会、宿毛市スポーツ推進委員会、中村特別支援学校、高知県社協、知的障害者福祉協会、高知ファイティングドッグス		
取組内容 種目・指導者等	陸上競技記録会の開催：スポーツ参加機会の創出を目的に、用具等が要らず選手が取り組み易い陸上競技の記録会を開催。		
実施期日	対象者	参加人数	計
2019年11月2日(土)	西部地区を中心に県内外の障害者	116人	116人
◆モデルづくりの視点	①参加しやすい運営の工夫 ②教室と大会の連携 ③支える人材(スタッフ)の確保 ④継続した取組になるための工夫		
◆対策	①個人参加者希望者へ当日世話役の配置 ②事前教室の参加者は基本的に大会にも参加 ③地元の高校陸上部OB組織の運営協力 ④西部地域での支援者の養成事業を次年度実施		
成果(○) 課題(●)	○昨年度の反省課題であった他団体との日程調整を行ったことで参加者数が増加。 ○座位の選手(スラローム)の参加が大きく増えた。 ○同事業を受託する総合型SCが本年度は選手輸送にバスを出して協力して下さった。 ○地元ケーブルテレビに取材協力いただいた。 ○愛媛で合宿中のモザンビークのパラ代表選手が参加。 ●現状では参加費を取ると参加者は半減以下になると考えており、委託経費がなくなったあと、どのように経費調達していくのか考えていく必要があるが、地方では大きな企業がある訳ではなく、大口スポンサーも考えづらい。 地域振興が掛け声で終わらないようにすることが最大の課題ではないかと考える。		
取組の評価	大会に向け自主トレーニングをする選手の報告なども出てきており、回を重ねることで一定の成果がみられる。		

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (運動を希望する生徒をターゲットとした活性化モデル)			
実施団体	特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国		
取組の名称	日常的な運動部活動への専門指導者(障がい者スポーツ指導員有資格者)の派遣		
目的	特別支援学校の運動部活動への指導者の派遣後に当該部活動が地域サークルと交流できる交流大会の実施や、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。		
取組写真			
取組内容	陸上競技指導者の派遣		
会場	高知県立山田特別支援学校		
連携団体	高知県立山田特別支援学校		
対象者	高知県立山田特別支援学校 陸上部		
指導者	まほろばクラブ南国のサークル(陸上競技)講師2名		
実施期日	指導内容	参加人数	計
① 9月9日	基礎練習(腕、足あげ)、スタートダッシュ	13人	38人
② 9月12日	基礎練習(腕、足あげ、走りのフォーム)、スタートダッシュ	12人	
③ 9月19日	前回の復習、100mダッシュ	13人	
◆モデルづくりの視点	障害の程度に合わせた指導ができる地域指導者の育成		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた専門指導の工夫 ・時期に合わせた指導 		
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○陸上競技協会登録メンバーと分けて行うことによりレベルに合わせた指導が行えた。 ○回数を重ねるたびに基礎フォームを意識する生徒が見受けられた。 ○運動会に合わせた日程で実施することができた。 ●専門指導者の確保。 		
取組の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の協力により、怪我をしない・させない練習ができた。 ・基礎練習時にBGMを導入することによって参加生徒の集中力を高め意欲を掻き立てていた。 		

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (運動を希望する生徒をターゲットとした活性化モデル)				
実施団体	特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国			
取組の名称	日常的な運動部活動への専門指導者(障がい者スポーツ指導員有資格者)の派遣			
目的	特別支援学校の運動部活動への指導者の派遣後に当該部活動が地域サークルと交流できる交流大会の実施や、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。			
取組写真				
取組内容	バドミントン指導者の派遣			
会場	香美市舟入小学校			
連携団体	高知県立山田特別支援学校			
対象者	高知県立山田特別支援学校 バドミントン部			
指導者	まほろばクラブ南国のサークル(バドミントン) 講師			
実施期日	指導内容		参加人数	計
① 11月18日	基礎練習(ラケットの持ち方、アップ打ち合い)、左右からの10球スマッシュ		18人	72人
② 11月25日	基礎練習、アンダー返し		18人	
③ 12月9日	基礎練習、サーブ練習、レシーブ練習		18人	
④ 12月12日	基礎練習、ゲーム練習		18人	
◆モデルづくりの視点	障害の程度に合わせた指導ができる地域指導者の育成			
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな指導者の派遣で指導内容の一転を図る ・大会に合わせた指導 			
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○参加生徒が個々で苦手分野のアドバイスを受けていた。 ○ラケットの握り方、振り方等の再確認ができた。 ○生徒同士の自主的な練習に繋がった。 ●交通手段の確保。 			
取組の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の協力により、怪我をしない・させない練習ができた。 ・3コートに分かれて行うことにより効率的な練習を行えた。 ・自主的に派遣指導者と打ち合いたいと申し出る積極性が見受けられた。 			

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (運動を希望する生徒をターゲットとした活性化モデル)				
実施団体	特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国			
取組の名称	日常的な運動部活動への専門指導者(障がい者スポーツ指導員有資格者)の派遣			
目的	特別支援学校の運動部活動への指導者の派遣後に当該部活動が地域サークルと交流できる交流大会の実施や、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。			
取組写真				
取組内容	バレーボール指導者の派遣			
会場	香美市立佐岡小学校、南国市立スポーツセンター			
連携団体	高知県立山田特別支援学校、高知県立障害者スポーツセンター			
対象者	高知県立山田特別支援学校 バレーボール部			
指導者	高知県立障害者スポーツセンター 職員			
実施期日	指導内容		参加人数	計
① 11月17日	基礎練習(トス、レシーブ)		13人	36人
② 12月15日	基礎練習、ボール慣れ(片手トス、片手レシーブ)		12人	
③ 1月19日	パス練習(オーバー、アンダー、対人、)レシーブ練習、スパイク、練習試合		11人	
◆モデルづくりの視点	障害の程度に合わせた指導ができる地域指導者の育成			
◆対策	バス送迎			
成果(○) 課題(●)	○参加生徒が積極的にアドバイスを聞きに行く姿が見受けられた。 ○生徒同士の自主的な練習に繋がった。 ●外部(学校外)で活動する時の支援者の確保。			
取組の評価	・開始前から各々ボールを持ち生徒同士で意欲的に練習を行っていた。 ・指導者と生徒間でコミュニケーションを多く図ることができた。			

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (運動を希望する生徒をターゲットとした活性化モデル)				
実施団体	特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国			
取組の名称	休日や放課後を利用したスポーツ体験教室			
目的	放課後や休日等の余暇時間に運動を希望する生徒へのスポーツ体験教室開催など複数の取組を行い、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。			
取組写真				
取組内容	フライングディスク体験教室			
会場	高知県立山田特別支援学校			
連携団体	高知県立山田特別支援学校、フライングディスク協会			
対象者	高知県立山田特別支援学校 中学部 高等部			
指導者	フライングディスク協会 関係者			
実施期日	指導内容		参加人数	計
① 9月4日	大会に向けての指導（握り方、基礎、2パス、キャッチ法）		13人	37人
② 9月11日	前回の復習、短距離、遠距離での投げ方、アキュラシー、ディスタンス		14人	
③ 9月24日	前回の復習、ディスタンス中心、クロスステップ（助走のつけ方）		10人	
◆モデルづくりの視点	放課後や休日等の余暇時間の有効活用			
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・大会に向けての専門指導を確保する。 ・放課後や休日の希望生徒の運動活動時間を確保するため、寮や保護者との調整等を行う。 			
成果（○） 課題（●）	<ul style="list-style-type: none"> ○フライングディスクの握り方、投げ方等の基礎の再確認ができた。 ○生徒のレベルに応じた指導ができた。 ●早めの計画を立て周知する時間を設ける。 			
取組の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・日程を大会に合わせて実施することができた。 ・参加者が述べ37人で、1回あたりは約12人であった。 ・目標としていた15人／回には届かなかったが、目標数値に近い参加を得られた。 			

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (運動を希望する生徒をターゲットとした活性化モデル)			
実施団体	特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国		
取組の名称	児童生徒や家族が参加できる多種目のスポーツ体験イベント		
目的	外部施設を利用して生徒やその保護者、卒業生、地域住民など、誰もが気軽に参加できる多種目のスポーツ活動を実施する。		
取組写真			
取組内容	まほろばクラブ南国秋の感謝祭		
会場	南国市立スポーツセンター		
実施期日	対象者	参加人数	計
10月19日	高知県立山田特別支援学校	10人	40人
	特定非営利活動法人 うーたん	30人	
◆モデルづくりの視点	総合型クラブや各取組における保護者や地域への周知		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎バスの運行で交通手段の難点を減らす。 ・チラシ配布でイベント周知を図る。 		
成果 (○) 課題 (●)	<ul style="list-style-type: none"> ○イベントと共催で行い外部との良い交流機会となった。 ○普段触れないスポーツを体験することができた。 ●保護者の方からの認知を上げていく。 ●他行事と重複したため、事前に日程調整を行う。 ●早期の案内 		
取組の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れ親しまないパラリンピック競技のようなルールを求められるスポーツを楽しんでもらえた。 ・学校行事と重なり十分な参加数は集まらなかったため、事業の日程調整が必要。 		

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (運動を希望する生徒をターゲットとした活性化モデル)					
実施団体		特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国			
取組の名称		休日や放課後を利用したスポーツ体験教室			
目的		放課後や休日等の余暇時間に運動を希望する生徒へのスポーツ体験教室開催など複数の取組を行い、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。			
取組写真					
取組内容		サッカー体験教室			
会場		高知県立山田特別支援学校			
連携団体		高知県立山田特別支援学校 高知県フライングディスク協会			
対象者		高知県立山田特別支援学校 中学部 高等部			
指導者		まほろばクラブ南国のサークル(フットサル) 講師 高知ユナイテッドスポーツクラブ 選手			
実施期日		指導内容		参加人数	計
①	12月3日	基礎練習(ボール慣れ、ドリブル)、ミニゲーム		4人	34人
②	1月15日	基礎練習(ボール慣れ、リフティング、ドリブル)		14人	
③	1月22日	基礎練習、前回の復習、対人ドリブル練習、練習試合		16人	
◆モデルづくりの視点		放課後や休日等の余暇時間の有効活用			
◆対策		放課後や休日の希望生徒の運動活動時間の確保するため、寮や保護者との調整等を行う。			
成果(○) 課題(●)		○参加生徒が準備、片付けを自主的に行っていた ○積極的にアドバイスを聞いていた ●専門指導者の確保 ●雨天時に備えた会場、及び予備日の確保			
取組の評価		・参加者述べ34人で、1回あたりは約11人だった ・総合では目標としていた15人/回には届かなかったが、3回目にして目標数値に達することができた。			

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (運動を希望する生徒をターゲットとした活性化モデル)			
実施団体	特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国		
取組の名称	交流バドミントン大会		
目的	特別支援学校の運動部活動への指導者の派遣後に当該部活動が地域サークルと交流できる交流大会の実施や、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。		
取組写真			
取組内容	交流バドミントン大会		
会場	南国市立スポーツセンター		
実施期日	2020年1月25日		
連携団体	南国市バドミントン連盟 高知県立障害者スポーツセンター 高知県立山田特別支援学校 高知県立日高特別支援学校 審判ボランティア 17名		
対象者 参加数	障害者	25人	38人
	健常者	13人	
チーム分け	障害者同士のペア	7組	19組
	障害者と健常者のペア	11組	
	健常者同士のペア	1組	
◆モデルづくりの視点	障害者と健常者がともに参加できる大会づくり スポーツと関わることができる場の提供		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 事前チラシの配布で参加者の増加を図る 		
成果（○） 課題（●）	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアスタッフ、教員、保護者の方の協力により大会がスムーズに行われた。 ○参加者が審判に関わる体験ができた。 ○年齢、障害の有無に関わらず試合を通して交流ができた。 ●別大会と重複したため、事前に日程調整を行う。 ●地域のボランティア協会に協力を仰ぐ。 		
取組の評価	ゲームをしていない選手が積極的に線審を務める姿が見受けられたほか、休憩時に自主的に練習ゲームで交流を図れた。		

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (卒業生や地域住民が参加するモデル)				
実施団体		特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	関係者検討会議			
目的	障害者が身近な地域で日常的にスポーツに楽しむことができる機会を提供する実践研究を通して、県内のあらゆる地域に汎用することができる効果的な取組のモデルづくりを行う。			
取組写真				
連携団体	高知県立障害者スポーツセンター 高知県立日高特別支援学校 高知県立若草特別支援学校			
会場	土佐市立市民体育館会議室			
参加者	特定非営利活動法人総合クラブとさ 指導者（3B体操） 高知県立日高特別支援学校 教員 高知県立障害者スポーツセンター 職員 土佐市社会福祉協議会 関係者 特定非営利活動法人総合クラブとさ 関係者 特定非営利活動法人総合クラブとさ スタッフ2名 高知県文化生活スポーツ部スポーツ課 職員2名			
実施期日		対象者	参加人数	計
①	2019年7月18日（木）15時～17時	関係者検討会議委員	11名	29名
②	2019年11月28日（木）14時～16時	関係者検討会議委員	9名	
③	2020年2月19日（水）15時30分～17時30分	関係者検討会議委員	9名	
◆モデルづくりの視点	—			
◆対策	—			
成果（○） 課題（●）	○それぞれの分野から知識・意見を出し合い、活動の内容がより良いものとなっている。 ○今後に繋げていくためにどうしていけば良いのか、話し合いによって方向性が見えてきた。			
取組の評価	様々な意見が出て話し合うことができたので、活動の内容が充実し、今後に繋がる意見交換ができた。			

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)				
実施団体		特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	休日や放課後を活用したスポーツ体験教室			
目的	在校生を対象に、普段行わないスポーツ体験をしてもらう。			
取組写真				
取組内容	シッティングバレー教室			
会場	高知県立日高特別支援学校			
連携団体	高知県立日高特別支援学校			
指導者	高知県社会福祉協議会職員 職員 理学療法士ほか1名			
実施期日		対象者	参加人数	計
①	2019年7月4日(木) 15時30分～16時30分	生徒 職員	20人	37人
②	2019年7月11日(木) 15時30分～16時30分	生徒 職員	17人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> * 学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 * 支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 * 総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 * 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 			
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシを配布して参加者を呼び掛けた。 ・総合クラブとさの既存の活動の紹介 			
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○直接的に既存のスポーツ活動への参加には繋がりにくいですが、総合クラブとさの活動は知ってもらえるようになっている。 ○昨年からのシッティングバレー教室を行っているため、生徒達もルールが分かってきており、試合形式でゲームを行うことができた。 ○ソフトバレーボールを使って行っていたが、正式なバレーボールでもできるようになり、より競技に近づけた。 ○2回目も同じ生徒の参加が多く、指導者も顔を覚えて、わきあいあいと楽しむことができた。 			
取組の評価	今年度2回目の種目となり、継続していくことで競技のレベルが上がっているのは評価できる。			

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)			
実施団体	特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	P T A行事を活用したスポーツ体験教室		
目的	児童生徒に複数のスポーツ体験をして、自分に合った種目を見つけるとともに、保護者にもスポーツの必要性を理解してもらう。		
取組写真			
取組内容	トランポリン 体幹トレーニング ビームライフル パラシュット シャッフルボード 卓球バレー		
会場	高知県立日高特別支援学校		
連携団体	高知県立日高特別支援学校		
指導者	パラシュット 卓球バレー	総合クラブとさ スタッフ	
	体幹トレーニング	ブルームーン合同会社 職員	
	トランポリン	障がい者スポーツセンター 職員	
	シャッフルボード	総合クラブとさ スタッフ	
	ビームライフル	総合クラブとさ 職員2名	
実施期日	対象者	参加人数	計
2019年7月22日(月) 13時00分～15時10分	生徒と保護者 職員	44人	44人
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> *学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 *支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 *総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 *総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部～高等部までが一緒にできる内容検討 ・P T A行事で、保護者も一緒に活動に参加してもらうことで、総合クラブとさの活動やスポーツの必要性を知ってもらう。 		
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○初めての体幹トレーニングは、結構ハードだったが、みんな一生懸命取り組んでいた。 ○パラシュットが好評で、一緒に体験した先生から、運動会で使用したいとの声が聞かれ、実際に運動会でパラシュットが行われた。 ○親子で体験することで、スポーツに取り組む子ども達の様子を見てもらえ、必要性やクラブの存在を認識してもらえた。 ●保護者と一緒に活動する時間が20分程と短かったので、もう少し長い時間一緒に体験してもらえるように学校側との調整が必要。 		
取組の評価	親子で体験する機会があることで、保護者にもスポーツの必要性、取組について理解してもらうことができた。		

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)				
実施団体		特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	同窓会を活用したスポーツ体験教室			
目的	卒業生を対象に、スポーツ体験をしてもらう。			
取組写真				
取組内容	フラダンス ターゲットナイン シットティングバレー アクアビクス シャッフルボード ビームライフル			
会場	高知県立日高特別支援学校			
連携団体	高知県立日高特別支援学校			
指導者	フラダンス	総合クラブとさ 指導者 2名 総合クラブとさ 職員		
	ターゲットナイン	総合クラブとさ スタッフ		
	シットティングバレー	理学療法士ほか 1名		
	アクアビクス	ブルームーン合同会社 職員		
	シャッフルボード	総合クラブとさ スタッフ		
	ビームライフル	総合クラブとさ 職員		
実施期日		対象者	参加人数	計
①	2019年7月22日(月) 13時00分～15時10分	同窓生・生徒と保護者・職員	100人	100人
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> *学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 *支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 *総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 *総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 			
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシを配布し、参加を呼び掛けた。 ・スポーツが苦手な人でも参加しやすい種目や、シューズを持っていなくても参加できる種目を選択。 			
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○恒例のフラダンスは、毎回好評で、卒業生でフラダンスを習いたいという声も聞こえている。 ○シットティングバレーを経験した卒業生が同窓会に参加していて、何人も参加してくれていた。 ○去年体験して面白かったと言ってくれていた人が今年も体験しに来てくれた。 ○先生方が声掛けをしてくれたため、参加者が多かった。 			
取組の評価	毎年行うことで、活動が定着しており、楽しみにしている卒業生が増えている。継続することで、地域のスポーツ活動への参加に繋がっていきたい。			

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)			
実施団体	特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室		
目的	地域の福祉施設の入所者の方にスポーツ体験をしてもらう。		
取組写真			
取組内容	スポーツスタッキング ミニトランポリン ターゲットナイン ダーツ 輪投げ		
会場	土佐市男女共同参画センター		
連携団体	子どもを育てる会～とさっこクラブ～		
指導者	スポーツスタッキング	総合クラブとさ スタッフ	
	ミニトランポリン	総合クラブとさ 職員	
	ターゲットナイン	ボランティアに来ていた保育士3名	
	ダーツ		
	輪投げ		
実施期日	対象者	参加人数	計
2019年8月25日(日) 10時15分～11時15分	とさっ子クラブの児童と保護者	11人	11人
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> * 学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 * 支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 * 総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 * 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・夏のお祭り気分ですポーツ体験をしてもらえるよう、種目を検討した。 ・とさっこクラブで募集したボランティアの方が9名いたので、3種目をお任せした。 		
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○今までのイベントでは、座って参加しなかった子どもも今回は参加ができたので良かった。 ○学校を卒業してからは運動する機会があまりないので、こういう機会があるのはありがたいとの意見を頂いた。 ○普段体験したことの無い種目もあり、何度も挑戦する姿が見られた。また親子で運動を楽しめた。 ●卒業後の運動の機会が欲しいとの意見があったが、障害を持った子どもが一人でサークルの中に参加するのは難しい。友人や知人が一緒に参加してくれるか、一人でも参加できる教室があればよいという意見があった。 ●学校の愛校作業と日が重なってしまい、参加者が少なかった。 		
取組の評価	子どもを育てる会と連携できたことは評価できる。今回の取組が良かったため、継続することで参加者増が期待できる。		

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)				
実施団体		特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	在校生を対象に、スポーツ体験をしてもらう。			
目的	特別支援学校の在校生や卒業生を対象に、普段経験することができないスポーツを体験する機会を提供する。			
取組写真				
取組内容	フライングディスク教室			
会場	高知県立日高特別支援学校			
連携団体	高知県立日高特別支援学校			
指導者	高知県フライングディスク協会 関係者			
実施期日		対象者	参加人数	計
①	2019年9月5日(木) 15時30分～16時30分	生徒 職員	27人	39人
②	2019年9月12日(木) 15時30分～16時30分	生徒 保護者 職員	12人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> * 学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 * 支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 * 総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 * 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 			
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・フライングディスクの大会前に開催することで、生徒達の関心が高かった。 ・チラシを配布して参加を呼びかけた。 			
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○ チラシを配布して参加を呼び掛けたため、保護者にも情報が届き、保護者と一緒に参加があった。 ○ 大会に向けて学校で取り組むにあたり、先生方にも良い経験となっている。 ○ 大会に向けて自信が持てるようになっており、ほとんどの生徒が入賞できた。 ○ 大会に出場する生徒以外にも、寄宿舎の生徒が入ってくれたので、良かった。 ● 申込書を提出していなかった生徒が、参加せずに見学していた。保護者にも活動を理解してもらい、申し込みをしてもらうようにしていく必要がある。 			
取組の評価	専門の指導者に指導を受けることで、生徒が真剣に取り組み、実績を残している事は評価できる。			

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)			
実施団体	特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	在校生を対象に、スポーツ体験をしてもらう。		
目的	地域の福祉施設の入所者の方にスポーツ体験をしてもらう。		
取組写真			
取組内容	カポエイラ		
会場	障害者支援施設 くすのき園		
連携団体	障害者支援施設 くすのき園		
指導者	総合クラブとさ 指導者 ボランティア		
実施期日	対象者	参加人数	計
2019年10月30日(水) 16時00分～16時40分	利用者 職員	40人	40人
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> * 学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 * 支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 * 総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 * 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	種目を変えることで、今まで参加していなかった人が参加できるようになった。何が向いているのか、参加者の反応を見ながら色々な種目を体験できるようにしていく。		
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○今年3年目なので、昨年までとは違う種目でカポエイラをおこなったところ、過去には参加しなかった方が積極的に参加する姿が見られた。 ○事業で訪問する機会が増え、信頼関係ができています。今年は施設が利用できない時に市民体育館を利用してスポーツをする等、活動の成果が出ている。 ●今年インフルエンザの流行が早い段階からあったため、12月頃からは施設に行くことができなくなった。次回は早い段階から日程を決めておく必要がある。 		
取組の評価	継続して開催することで、施設や入所者との信頼関係が持っている。入所者によってできる種目が異なるため、多種目の運動を提供していくことが必要になってくる。		

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)				
実施団体		特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	休日や放課後を活用したスポーツ体験教室			
目的	在校生を対象に、普段行わない体験してもらう。			
取組写真				
取組内容	ダンス体験			
会場	高知県立日高特別支援学校			
連携団体	高知県立日高特別支援学校			
指導者	高知リトルプレイヤーズシアター 関係者			
実施期日		対象者	参加人数	計
①	2019年12月5日(木) 15時30分～16時40分	生徒 職員	16人	30人
②	2019年12月12日(木) 15時30分～16時40分	生徒 職員	14人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> * 学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 * 支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 * 総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 * 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 			
◆対策	チラシを事前配布して参加を呼び掛ける。			
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3回目の開催になるので、今回は基礎練習をメインに行った。基礎を練習したことで、リズムの早い音楽も踊れるようになった。 ○ オリンピックを意識してパプリカを練習したが、生徒たちに好評で、みんなすぐに覚えて踊っていた。 ○ 保護者に活動を知ってもらえている。 			
取組の評価	専門の指導者に指導を受けることで、生徒が真剣に取り組み、実績を残して行っている事は評価できる。			

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)			
実施団体	特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室		
目的	地域の福祉施設の通所者の方にスポーツ体験をしてもらう。		
取組写真			
取組内容	スポーツスタッキング 輪投げ		
会場	デイサービス かけはし		
連携団体	デイサービス かけはし		
指導者	スポーツスタッキング	総合クラブとさ スタッフ	
	輪投げ	総合クラブとさ スタッフ	
実施期日	対象者	参加人数	計
2019年12月21日(土) 14時00分～14時40分	通所者と職員	18人	18人
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> * 学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 * 支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 * 総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 * 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースの問題があり、できる種目が限られていたが、多世代の人にできる種目を検討。 ・体育館での活動の実施に向けて、冬休み等での活動を検討。 		
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○日高特別支援学校の卒業生や在校生も通所しており、何度か学校で体験していたことから、通所者もスタッフもスムーズに行うことができた。 ○年配の方から小学生まで、幅広い年代の人が通っている施設であり多世代の方々の体験だったが、みなさんに喜ばれた。 ●スペースが限られているため、できる種目に限りがある。体育館での活動も検討はしてくれたが、今回は実現に至らなかった。今後イベントの案内や、活動を続けていくことで、体育館でのスポーツ活動を定着させていきたい。 		
取組の評価	スペースの問題で、できる種目に限りがあり、施設内で継続してスポーツ活動を行うには限界がある。しかし、今回1度開催したことで繋がりができ、ボッチャやニュースポーツに施設から参加がある等、成果に繋がっている。		

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)				
実施団体	特定非営利活動法人 総合クラブとさ			
取組の名称	卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室			
目的	地域の福祉施設の入所者の方にスポーツ体験をしてもらう。			
取組写真				
取組内容	体操 スポーツスタッキング ターゲットナイン ダーツ 輪投げ リングリング ボッチャ トリコロキューブ ソフトダーツ			
会場	ひまわり舎			
連携団体	ひまわり社・ふれあい工房			
指導者	ターゲットナイン ダーツ ソフトダーツ	総合クラブとさ 職員		
	体操	ほっとす代表者 総合クラブとさ 職員		
	スポーツスタッキング	総合クラブとさ スタッフ		
	ボッチャ	ボッチャ選手 2名		
	リングリング トリコロキューブ	総合クラブとさ 職員		
	輪投げ	ひまわり舎 職員		
実施期日		対象者	参加人数	計
2019年11月23日(土)10時00分～11時30分		利用者 職員	25人	77人
2020年1月29日(水)10時00分～11時30分		利用者 職員	25人	
2020年2月19日(水)10時00分～11時30分		利用者 職員	27人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> * 学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 * 支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 * 総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 * 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 			
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いすの方もいるので、みんなが参加できるような種目や体操を紹介。 ・ 土佐市民体育館で行うイベントのチラシを配布して参加を呼び掛けた。 			
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年の活動が広がっており、施設側が定期的に3B体操の指導者を招いたり、外で活動できない際は土佐市民体育館でも活動を行いたいとの要望が出ている。 ○ スポーツスタッキングは初めて紹介する種目だったが、タイム計測ができることで、自分がどんどん上手になっている実感を得られたようで、何人もから楽しかったとの声が聞かれた。 ○ 体操ではほとんど動かなかった人が、ターゲットナインでは、動物の名前を言いながら投げてパネルが空くと、とても喜ぶ様子が見られた。最後にはハイタッチをしてくれる等、交流が深まった。 ○ リングリングでは、重度の人が参加し、リングをまわして楽しんだ。職員から、楽しく普段見られない一面が見れて良かったとの声を頂いた。 ○ 今後も継続して活動を希望する声が聞かれた。 ○ ボッチャを継続的にできないかとの依頼があり、施設側も定期的なスポーツ活動に取り組み始めている。 ● 今後は体育館での活動も視野に入れながら取組を続けて行くことで、既存のスポーツ活動への参加に繋げていきたい。 			
取組の評価	施設独自でのスポーツに対する取組も増えており、利用者からもっとスポーツ活動を行いたいとの要望が出るなどの成果がでており、評価できる。			

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)				
実施団体		特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	P T A行事を活用したスポーツ体験教室			
目的	児童生徒に複数の種目を体験してもらい、自分に合った運動を見つけてもらう。			
取組写真				
取組内容	スポーツフェスティバル			
会場	土佐市民体育館			
連携団体	高知県立日高特別支援学校			
指導者	カポエイラ	カポエイラ 関係者 4名		
	ハンディキャップヨガ	はなまるキッズ		
	ファミリーバドミントン	総合クラブとさ スタッフ		
	ネットネット	総合クラブとさ 職員		
	カローリング	総合クラブとさ 職員		
実施期日		対象者	参加人数	計
2020年1月5日(日) 10時00分～12時00分		小学部～高等部 家族 職員	40人	40人
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> * 学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 * 支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 * 総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 * 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 			
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシを配布して参加を募った。 ・先生方が一緒に参加ししてくれることで、生徒が安心して参加することができた。 ・土佐市民体育館に来ることで、身近な場所に感じられ、今後のスポーツ活動に繋がるのが期待される。 			
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○先生方の呼びかけや、当日のバスや場所の案内、先生方も一緒に来る安心感から、22名の生徒から申し込みがあった。 ○参加した保護者も子ども達の楽しんでいる姿を見ることができたことや、一緒に運動ができたことで喜んでいました。 ○参加した生徒からはもっとやりたいとの声も聞かれ、イベント終了後、体育館を利用する生徒もいた。 ○フェスティバルの参加が決まってから、佐川町から土佐市に移動する練習をした生徒もいた。フェスティバル終了後は、先生方がバス停まで付き添ったり、昼食を購入しに行ったりと手厚くフォローしてくれており、生徒達も安心して参加できた。 ○先生方からも今まで体験したことのない種目があり、学校でもやってみたいとの声も聞かれた。 ○フェスティバル後、生徒が家族と一緒に体育館を利用することがあり、この活動が前進したと実感している。 ●次回はもっとたくさんの生徒に参加してもらえるよう、活動の幅を広げていく。 			
取組の評価	1つの目標であった卒業後のスポーツ活動への参加促進という意味では、自力で体育館に来て参加するという経験は大きかった。今後も継続して行うことで、参加者を増やし、卒業後もスポーツ活動を続けていける環境を作っていく。			

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)			
実施団体	特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	休日や放課後を活用したスポーツ体験教室		
目的	在校生を対象に、普段行わない体験してもらう。		
取組写真			
取組内容	ボッチャ体験		
会場	高知県立若草特別支援学校		
連携団体	高知県立若草特別支援学校		
指導者	ボッチャ選手 2名 障害者スポーツセンター 職員		
実施期日	対象者	参加人数	計
2020年1月21日(火) 15時30分～17時00分	生徒 職員	10人	10人
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> * 学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 * 支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 * 総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 * 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存のスポーツ活動への参加では、土佐市民体育館で行うフェスティバルや餅つき大会、ボッチャ&ニュースポーツ大会等のイベントのチラシを配布して声掛けを行った。 ・ 参加しやすい運営の工夫では、学校と相談し、種目を決めている。 		
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年ボッチャを行い、ボッチャの楽しさを体感することができたので、今年は戦略を中心に行ってほしいと学校側から依頼があり、年々グレードアップしていく事ができている。 ○ 参加した生徒は、最初ランプを使っても狙った場所に落とせなかったが、アドバイスを受けて目標球に近づけるようになった。ランプ以外でも、ただ近づけるのではなく、この場合にはどこに投げるのか等、効果的なアドバイスを受けることができた。 ● 身体障がい者の方に提供できる種目・指導者の確保が難しく、今回はボッチャ1種目のみの開催となった。 		
取組の評価	<p>専門の指導者が大会で勝てる方法などを指導し、真剣に取り組み生徒みんなが上達していた。部活動に出てきている生徒のみが参加していたので、参加者が少ない。送迎の問題があるので、部活動以外の生徒も参加できるように、保護者の理解、協力が得られれば参加者の増加が見込まれる。</p>		

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)				
実施団体		特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	障害当事者以外に対する障害者スポーツ体験教室			
目的	障害者スポーツを体験することで、障害者に対する理解を深めてもらう。			
取組写真				
取組内容	車いすバスケットボール ボッチャ			
会場	土佐市民体育館			
連携団体	高知シードラゴンズ			
指導者	車いすバスケットボール	高知シードラゴンズ スタッフ 2名		
	ボッチャ	ボッチャ選手 2名 総合クラブとさ スタッフ		
実施期日		対象者	参加人数	計
2020年2月9日(日) 10時00分～11時30分		イベント参加者	70人	70人
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> * 学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 * 支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 * 総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 * 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 			
◆対策	チラシを学校やサークル会員に配布するとともに新聞に折り込むなど、参加を呼び掛けた。			
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車いすバスケットボールは、当日の参加者が多く、車いすが足りなくなる程だった。最初は操作が難しかったが、次第に慣れ楽しそうな姿が見られた。参加者からは楽しかった、もっとやりたかったとの声が聞かれた。 ○ ボッチャでは、車いすバスケット車に乗って、車いすでする場合のボッチャを体験している子どももいた。立って行う場合と違い、狭い範囲で車いすを操作しながら行うボッチャに大変さを感じたようだった。 ○ ボッチャが楽しく、時間を過ぎててもっとやりたいとの声があり、12時まで延長した。その後にあるボッチャのイベントに声かけしたところ、参加したいと申し込みを頂いた。 			
取組の評価	クラブの他のイベントと同時開催することで、より多くの人に障害者スポーツを体験してもらうことができた。また次のイベントの告知も行き、参加者増につながった。			

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)			
実施団体	特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室		
目的	地域の福祉施設の入所者の方にスポーツ体験をしてもらう。		
取組写真			
取組内容	3 B体操・ボッチャ ターゲットナイン ソフトダーツ		
会場	作業所土佐		
連携団体	社会福祉法人 土佐福祉会		
指導者	3 B体操	総合クラブとさ 指導者	
	ボッチャ	ボッチャ選手 2名	
	ターゲットナイン	総合クラブとさ 職員	
	ソフトダーツ	総合クラブとさ 職員	
実施期日	対象者	参加人数	計
2020年2月11日(火) 10時00分～11時30分	利用者 職員	16人	16人
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> *学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 *支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 *総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 *総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・施設にも希望を聞き、種目を決めている。 ・総合クラブとさで行っているイベントのチラシを配布し、声掛けを行っている。 		
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年も行っていたのを覚えてくれており、今年も楽しみにしてくれていた。終わった後も入所者や職員からは楽しかった、また来て欲しいとの要望を受けた。 ○内容の違う運動を組み込むことで、激しく体を動かしたい人、あまり動かせない人も双方が楽しむことができていた。 ●普段は作業をしているため、平日の開催が難しい。また、土曜日は他のイベントやその準備もあり、何度も開催するのが難しかった。 		
取組の評価	参加者が楽しく体を動かすことができたのは評価できる。参加者、施設側からも好評であった。今後も継続して行っていくことで、施設側との連携深め、日程調整等をもっとスムーズに行って回数を増やしていく。		

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)			
実施団体	特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室		
目的	地域の福祉施設の入所者の方にスポーツ体験をしてもらう。		
取組写真			
取組内容	3 B体操 トリコロキューブ ターゲットナイン		
会場	ふれあい工房		
連携団体	社会福祉法人 土佐福祉会		
指導者	3 B体操	総合クラブとさ 指導者	
	トリコロキューブ	総合クラブとさ 職員	
	ターゲットナイン	総合クラブとさ 職員	
実施期日	対象者	参加人数	計
2020年2月18日(火) 10時00分～11時00分	通所者・職員	8人	8人
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> * 学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 * 支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 * 総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 * 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	体育館で開催するイベントの案内をし、総合クラブとさで実施するスポーツ活動への参加を促す。		
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最初は参加に戸惑っている様子だったが、徐々に体を動かし始めた。また全然参加していなかった通所者も、3 B体操のベルを使うことで、表情が変わり、楽しそうに参加していた。 ○ ターゲットナインを初めてする人がいたが、とても上手にできていて、本人ももっとやりたいと希望したり、職員もこんな動きを上手にできるのかと驚いている様子が見られた。 		
取組の評価	新体制になったばかりの施設のため、利用者5人の内、4人の参加があった。参加者から次回を期待する声があがっており、施設も利用者を増やしていくことから、継続することで参加者増が期待できる。		

特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり (在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした活性化モデル)			
実施団体	特定非営利活動法人 総合クラブとさ		
取組の名称	卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室		
目的	地域の福祉施設の入所者の方にスポーツ体験をしてもらう。		
取組写真			
取組内容	ボッチャ スタッキング シャフルボード ターゲットナイン		
会場	土佐市民体育館		
連携団体	デイサービスかけはし・土佐市社会福祉協議会		
指導者	ボッチャ	ボッチャ選手 2名 総合クラブとさ 職員	
	スタッキング	総合クラブとさ スタッフ	
	シャフルボード	総合クラブとさ 職員	
	ターゲットナイン	総合クラブとさ 職員	
実施期日	対象者	参加人数	計
2020年2月22日(土) 13時00分～15時00分	障害を持っている人とその家族	21人	21人
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> *学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫 *支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 *総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知 *総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> ・お餅つき&健康まつりでボッチャに参加してくれた人にチラシを配布した。 ・土佐市内の障害者施設、日高特別支援学校、若草特別支援学校、障害者スポーツセンターにもチラシを配布し、参加を呼び掛けた。 		
成果(○) 課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> ○初めての取組だったが、21名参加があった。 ○今回の取組で活動を行った施設からの参加もあった。施設からの参加者には、日高特別支援学校の卒業生もいて、その子が行くならと、他の子も一緒に来て参加者が増えた。 ○土佐市の身体障害者協議会の方の参加も多数あった。今までボッチャをしたことが無かったので、とても楽しかった。また続けてほしいとの感想を頂いた。 ○若草特別支援学校で指導に入ってくれた方も参加してくれ、色々なアドバイスを受けながら、大会さながらの試合も見学することができた。 ○高齢者の方にはボッチャが人気だった。若い人はシャフルボードやスタッキング等、体験した事のない種目を楽しんでいた。 ●チラシを配布するのが遅れた施設もあり、参加したかったが他の予定があり参加できない方もいた。早い段階から企画して動くべきだった。 		
取組の評価	取組により、今まで関わっていなかった地域の身体障害者の方々の関わりが持てた。今後も継続することで、地域の障がいを持っている方の運動をする機会の向上に繋がってくる。		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり			
実施団体	特定非営利活動法人 くぼかわスポーツクラブ		
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室		
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。		
取組写真			
取組内容	ボッチャ体験教室		
会場	高岡郡四万十町大正32-1 四万十町大正老人福祉センター		
連携団体	社会福祉法人さくら福祉事業会 やまびこ作業所 しまんと町社会福祉協議会		
指導者	高知県ボッチャ協会 関係者 2名		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和元年10月2日 10:00～11:30	利用者12人 職員2人	14人	17人
	講師1人 くぼかわスポーツクラブ1人 しまんと町社会福祉協議会1人	3人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所者が参加しやすい運営の工夫 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 総合型クラブや各取り組みについて地域への周知 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	職員の配慮と協力を得て運営することができ、就業時間内に実施することができた。		
成果（○） 課題（●）	○平日の業務中にもかかわらず、多数参加できた。 ●業務との関係で、時間的な調整等が困難。		
取組の評価	この事業でのボッチャ体験教室は初めてであったが、参加者はすぐに溶け込み楽しい教室であった。		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり			
実施団体	特定非営利活動法人 くぼかわスポーツクラブ		
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室		
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。		
取組写真			
取組内容	ボッチャ体験教室		
会場	高岡郡四万十町榊山町3-7 四万十町農村環境改善センター		
連携団体	社会福祉法人さくら福祉事業会 あさぎり作業所		
指導者	高知県ボッチャ協会 関係者		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和元年10月2日 13:00~14:30	利用者6人 職員1人	7人	10人
	講師2人、くぼかわスポーツクラブ1人	3人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所者が参加しやすい運営の工夫 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 総合型クラブや各取組みについて地域への周知 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	職員の配慮と協力を得て運営することができ、就業時間内に実施することができた。		
成果（○） 課題（●）	<p>○作業時間の関係で参加者は少ないが、その分、競技に打ち込める時間が増え、技術の向上に役立った。</p> <p>●業務との関係で、時間的な調整等が困難。</p>		
取組の評価	実施日が平日で業務多忙のため限られた人数のみが参加したが、パラスポーツの機会が提供できた。		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり			
実施団体	特定非営利活動法人 くぼかわスポーツクラブ		
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室		
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。		
取組写真			
取組内容	ボッチャ体験教室		
会場	高岡郡四万十町本堂 4 0 5 - 4 四万十町窪川 B&G 海洋センター		
連携団体	特定非営利活動法人 由菜の里		
指導者	高知県ボッチャ協会 関係者		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和元年 10 月 11 日 14:30~16:00	利用者 9 人 職員 3 人	12 人	14 人
	講師 1 人、くぼかわスポーツクラブ 1 人	2 人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所者が参加しやすい運営の工夫 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 総合型クラブや各取組みについて地域への周知 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	由菜の里の教室に対する配慮と運営協力により、作業所利用者の正規就業時間後に時間を設定することができた。		
成果（○） 課題（●）	○職員の協力で、明るい楽しい教室となった。 ●施設外業務や他のイベント参加があり日程調整が困難であった。		
取組の評価	ボッチャ競技の楽しみ方がわかるようになり、参加者同士が声をかけながら、作戦を練る姿が見られるようになった		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり			
実施団体	特定非営利活動法人 くぼかわスポーツクラブ		
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室		
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。		
取組写真			
取組内容	ボッチャ体験教室		
会場	高岡郡四万十町仁井田 4 6 2 オイコニア ホール		
連携団体	社会福祉法人明成会		
指導者	高知県ボッチャ協会 関係者		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和元年 10 月 21 日 10:30～11:30	入所者 18 人 職員 3 人 技能実習生 1 人	22 人	25 人
	講師 1 人 くぼかわスポーツクラブ 1 人 県スポーツ課 1 名	3 人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所者が参加しやすい運営の工夫 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 総合型クラブや各取組みについて地域への周知 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> 入所施設であるため、日常生活の中での教室の時間設定をした。 会場を生活の場であるホールにした。 		
成果（○） 課題（●）	<p>○教室会場を生活の場であるホールに変更したことで、参加者自らが移動でき、スタッフの負担軽減と時間の有効活用ができた。</p> <p>●教室時間が 1 時間と短く、また参加者のほとんどが車いす利用のため、一人当たりの競技時間が少ない。</p>		
取組の評価	日頃、からだを動かす機会が少ない入所者にとって、楽しいレクとなり、今後事業継続が期待される。		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり			
実施団体	特定非営利活動法人 くぼかわスポーツクラブ		
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室		
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。		
取組写真			
取組内容	ボッチャ体験教室		
会場	高岡郡四万十町大正 1 9 4 - 2 四万十町大正健康管理センター		
連携団体	社会福祉法人さくら福祉事業会 やまびこ作業所		
指導者	高知県ボッチャ協会 関係者 2名		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和元年 10 月 23 日 10:00～11:30	利用者 12 人 職員 2 人	14 人	18 人
	講師 2 人 くぼかわスポーツクラブ 2 人	4 人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所者が参加しやすい運営の工夫 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 総合型クラブや各取り組みについて地域への周知 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	作業所の配慮と運営協力により就業時間内に時間設定した。		
成果（○） 課題（●）	○ 2 回目で、ルールや攻め方も理解し、楽しく競技できた。		
取組の評価	施設側の理解と協力で参加者も多く、スムーズに取り組めた。		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり			
実施団体	特定非営利活動法人 くぼかわスポーツクラブ		
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室		
目的	<p>総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。</p>		
取組写真			
取組内容	ボッチャ体験教室		
会場	高岡郡四万十町榊山町3-7 四万十町農村環境改善センター		
連携団体	社会福祉法人さくら福祉事業会 あさぎり作業所		
指導者	高知県ボッチャ協会 関係者 2名		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和元年10月23日 13:00~14:30	利用者6人 職員1人	7人	10人
	講師2人 くぼかわスポーツクラブ1人	3人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所者が参加しやすい運営の工夫 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 総合型クラブや各取り組みについて地域への周知 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	作業所の配慮と運営協力により就業時間内に時間設定した。		
成果（○） 課題（●）	<p>○作業時間の関係で参加者は少ないが、その分、競技に打ち込める時間が増え、技術の向上に役立った。2回目で、ルールや攻め方も理解し、楽しく競技できた。</p> <p>●作業所の配慮があつての作業時間内の教室となっているが調整が困難である。</p>		
取組の評価	実施日が平日で業務多忙のため、限られた人数(割り当て)のみが参加したが、パラスポーツの機会が提供できた。		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり			
実施団体		特定非営利活動法人 くぼかわスポーツクラブ	
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室		
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。		
取組写真			
取組内容	ボッチャ体験教室		
会場	高岡郡四万十町榊山町3-7 四万十町農村環境改善センター		
連携団体	特定非営利活動法人 由菜の里 ボランティア団体 Do ネットワーク 中村特別支援学校		
指導者	高知県障害者スポーツセンター 職員		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和元年10月25日 14:30~16:00	利用者7人 職員4人 実習生2名 実習生引率教員1人 実習生保護者1人	15人	22人
	講師1人 くぼかわスポーツクラブ1人 ボランティア3人 県スポーツ課2人	7人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所者が参加しやすい運営の工夫 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 総合型クラブや各取組みについて地域への周知 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> 作業所の配慮と運営協力により就業時間内に時間設定した。 施設職員等が、クラブの活動に参加し、関係作りをしている。 		
成果（○） 課題（●）	<p>○体験教室当日、由菜の里へ実習に訪れていた中村特別支援学校の生徒2名（四万十町出身）が特別参加してくれ、今後、特別支援学校との連携にむけた取組を模索できた。</p> <p>○ボランティア団体の会員が参加したことで、ボランティア活動としての障害者スポーツの理解が得られた。</p> <p>●施設外業務やイベント参加があり日程調整に苦労している。</p>		
取組の評価	<p>法人は、日ごろから利用者の健康管理に力を入れており、パラスポーツにも理解を示しているため、今後も継続した取組が期待できる。</p> <p>今回、特別支援学校がタイミングよく体験教室へ参加できたことで、今後の県西部地域の支援学校に対する障害者スポーツの足掛かりとなった。</p>		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり			
実施団体	特定非営利活動法人 くぼかわスポーツクラブ		
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室		
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。		
取組写真			
取組内容	ボッチャ体験教室		
会場	高岡郡四万十町仁井田462 オイコニア ホール		
連携団体	社会福祉法人明成会		
指導者	高知県ボッチャ協会 関係者		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和元年11月10日 13:30～15:00	入居者15人 職員3人	18人	20人
	講師1人 くぼかわスポーツクラブ1人	2人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所者が参加しやすい運営の工夫 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 総合型クラブや各取組みについて地域への周知 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> 入居者にとって、平日は1日のサイクルが決まっており競技時間があまりとれないため、入所者が自由に参加できる休日に設定し1時間半を充てた。 職員に運営の協力をしてもらう。 		
成果（○） 課題（●）	○入居者が自由に参加でき、競技時間も長めにとれた。		
取組の評価	体験時間を多めに確保したことにより競技に集中できた。		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり			
実施団体	特定非営利活動法人 くぼかわスポーツクラブ		
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室		
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。		
取組写真			
取組内容	ボッチャ体験教室		
会場	高岡郡四万十町大正 1 9 4 - 2 四万十町大正健康管理センター		
連携団体	社会福祉法人さくら福祉事業会 やまびこ作業所		
指導者	高知県障害者スポーツセンター 職員		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和元年 11 月 28 日 10:00～11:30	利用者 12 人 職員 3 人	15 人	17 人
	講師 1 人 くぼかわスポーツクラブ 1 人	2 人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所者が参加しやすい運営の工夫 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 総合型クラブや各取組みについて地域への周知 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	作業所の配慮と運営協力により就業時間内に時間設定した。		
成果（○） 課題（●）	○若い人の参加が多く、積極的に取り組めた。 ●作業時間内の実施であり、参加人数が限定される。		
取組の評価	この種目は、従来から取り組んでおり、施設利用者が多数参加した。参加者は比較的若く、今後スポーツ活動に積極的に取り組むきっかけづくりになった。また、参加者の中には、この種目で全国障害者スポーツ大会の参加者もいる。		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり					
実施団体		特定非営利活動法人 くぼかわスポーツクラブ			
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室				
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。				
取組写真					
取組内容	ボッチャ体験教室				
会場	高岡郡四万十町仁井田462 オイコニア ホール				
連携団体	社会福祉法人明成会				
指導者	高知県ボッチャ協会 関係者				
実施期日		対象者		参加人数	計
令和元年11月28日 10:30～11:30		入居者19人 職員3人 小学生3人		25人	29人
		講師1人 くぼかわスポーツクラブ1人 県スポーツ課2人		4人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所者が参加しやすい運営の工夫 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 総合型クラブや各取組みについて地域への周知 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 				
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> 入所施設であり、日常生活の中での教室時間を設定した。 小学校の福祉体験学習の日と重なり小学生にもスタッフとして協力を依頼した。 				
成果（○） 課題（●）	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者の技術向上と、日常的にスポーツを楽しむ機会を得た。 ○小学校の児童にスタッフとして協力してもらったり、ボッチャを体験してもらったりと、スポーツを通して入居者とも交流ができた。 				
取組の評価	小学生はボッチャ競技が初体験であったが、すぐに慣れ、興味を示し、表情が柔らかくなり入所者とともにゲームを楽しむ姿があった。日頃、体を動かす機会が少ない入所者にとって楽しい時間となり、今後事業継続が期待される。				

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり			
実施団体	特定非営利活動法人 くぼかわスポーツクラブ		
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室		
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。		
取組写真			
取組内容	フライングディスク体験教室		
会場	高岡郡四万十町榊山町3-7 四万十町農村環境改善センター		
連携団体	社会福祉法人さくら福祉事業会、あさぎり作業所		
指導者	高知県障害者スポーツセンター 職員		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和元年11月28日 13:00~14:30	利用者5人 職員1人	6人	9人
	講師1人 くぼかわスポーツクラブ2人	3人	
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所者が参加しやすい運営の工夫 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保 総合型クラブや各取組みについて地域への周知 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 		
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> 作業所の配慮で就業時間内に実施できた。 社会福祉協議会の福祉体験学習にくぼかわスポーツクラブの職員が講師として出向き、取組の広報を行った。 		
成果（○） 課題（●）	<p>○日ごろ、作業所内でもレクリエーションとして取り組み、また、教室で専門家に指導を受けたことで、高知県障害者スポーツ大会での好成績に繋がっている。</p> <p>●作業時間内の実施であり、参加者人数が限定される。</p>		
取組の評価	体験教室に参加できた人数は限られていたが、パラスポーツの機会が提供でき、今後も事業継続が期待される。		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり		
実施団体	特定非営利活動法人 くぼかわスポーツクラブ	
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室	
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。	
取組写真		
取組内容	スポーツ交流大会(四万十ふくふくまつり)	
会場	高岡郡四万十町榊山町3-7 四万十町農村環境改善センター	
連携団体	四万十町障害者自立支援協議会 D o ネットワーク	
指導者	講師：Uプロジェクト関係者ほか	
実施期日	対象者	参加人数
令和元年12月7日 12:00～15:30	さくら福祉事業会 由菜の里 地域住民 くぼかわスポーツクラブ2人	200人(概数)
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所者が参加しやすい運営の工夫 支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 総合型クラブや各取組みについて地域への周知 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 	
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> チラシの配布及びホームページで広報を行った。 地域のボランティアを多数確保した。 	
成果(○) 課題(●)	○四万十町では「ふくし」を知るきっかけづくりのイベント”四万十ふくふくまつり”を毎年開催。今年は「みんなでしよう！わくわくスポーツ」をテーマに高知県障害者スポーツ推進プロジェクトも交流会として位置付けて取り組んだ。体験教室参加者と地域住民が一堂に集まり、パラスポーツの周知や当日の参加者がパラスポーツを通じた交流ができた。このことにより障害者スポーツに対し理解が深まった。	
取組の評価	障害の有無や年齢に関わらず幅広い方の参加があり、地域住民がパラスポーツを知るきっかけとなり、パラスポーツの普及に期待が持てる。	

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり				
実施団体	特定非営利活動法人 くぼかわスポーツクラブ			
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室			
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。			
取組写真				
取組内容	ボッチャ体験教室発表会(四万十町ボッチャ大会)			
会場	高岡郡四万十町本堂405-4 四万十町窪川B&G海洋センター			
連携団体	ボランティア連絡協議会、県ボッチャ協会			
指導者	高知県ボッチャ協会 関係者3名			
実施期日	対象者	参加人数	計	
令和2年2月26日 13:30~15:30	福祉施設等利用者12人 職員5人	17人	26人	
	講師3人 くぼかわスポーツクラブ1人 くぼかわボランティア連絡協議会3人 県スポーツ課2人	9人		
◆モデルづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所者が参加しやすい運営の工夫 支える人材(地域ボランティアスタッフ)の確保 総合型クラブや各取組みについて地域への周知 総合型クラブが実施する既存のスポーツ活動への参加につながる工夫 			
◆対策	<ul style="list-style-type: none"> 施設、作業所側の理解を得て、就業時間内に実施した。 送迎を作業所が担い、車いす利用者が参加できる体制を整えた。 ボランティア連絡協議会と調整しボランティアスタッフを確保した。 広報の手立てとして町内の回覧板を利用しチラシを配布した。 ケーブルテレビを利用して、取組の周知を行った。 			
成果(○) 課題(●)	<p>○体験教室に参加した4団体に参加を依頼したが、由菜の里、オイコニアの2団体のみの参加になった。当日はやまびこ、あさぎりは年度末で受注作業が多く、残念ながら不参加となった。しかし、来場した、県職員やボッチャ協会、地域ボランティアスタッフも競技に参加し、8チームによるトーナメント戦と1回戦敗者によるトーナメントを行った。終始明るい雰囲気笑顔の絶えない大会になった。</p> <p>○地元のケーブルテレビで放映されたことで、取組の周知に繋がった。</p> <p>●今回のモデルづくりは、2種目を4団体対象に計画。土、日、祝日の開催は不可能であり、作業所は就労時間内、福祉施設は支援員の勤務の関係で平日実施とした。発表会でも2作業所が業務の関係で不参加。チラシなどの広報の活動も実らず、一般の参加はなかった。また、移動手段も団体の協力が不可欠。作業時間内の実施であり、参加者人数が限定される。</p>			
取組の評価	今回、モデル事業の結果、障害者も気軽にスポーツに取り組む機会ができたことや、障害者同士の交流の機会となった。また、スポーツを通じて健康についての意識の向上が図られた。一方、地域の方にも障害者スポーツを知ってもらえることができた。			

V 成果と課題

本県での障害者スポーツ推進事業は4年目となり、高知県西部（幡多地区）での障害者陸上記録大会も4回目を迎えた。本年度は、近隣県の選手や愛媛県で合宿中のモザンビークのパラリンピアンが参加し、世界トップレベルのウォーミングアップの仕方や記録に臨む姿を実際に目にすることで参加者や大会スタッフ等にとって大変刺激がある大会となった。また、新たな試みとして引率者のいない特別支援学校の卒業生が安心して参加するために案内係としてコーディネーターを配置し、環境づくりに努めた。今後、記録会に障害者が一人でも参加できるように、参加者のどのような些細な不安要素もできる限り解消することが障害者がスポーツを継続し、スポーツの参加拡充に繋がることだと感じた。

「新たな運動部活動への専門指導員（障がい者スポーツ指導員）の派遣」については、初めての指導者のため不安もあったと思うがすぐに打ち解け、楽しく取り組む生徒の姿が見られた。生徒の運動レベルに対応した個別指導やグループ指導により、技術面や意欲の向上とともに「できた」「できる」という達成感や自信に繋がる取組となった。しかし、部活動の時間帯と指導者の指導可能な時間帯がマッチングせず、指導者の確保に課題が残った。

地域のスポーツ施設や障害者福祉施設での活動を増やすため「地域のスポーツ施設、総合型地域スポーツクラブ拠点体育館」を活用した取組では、地域のイベントと共催して事業を展開することで障害の有無に関わらず安心してスポーツを楽しむ地域の方々と触れ合うことができる活動となった。また、学校の理解を得ることができ、校外学習の一環として生徒が公共交通を利用して参加できる良い機会となった。さらに、学校以外の施設でスポーツを楽しむ子どもの姿を見ることにより、保護者にスポーツの価値に気付いていただける機会にもなったと考えている。ただ、健常者とともにスポーツ活動をするにまだ不安を抱く保護者もいるので、障害の有無に関わらず、誰もが一緒に参加する取組を広げていくためには、継続的に相互理解を深めていくことが必要である。

「地域の障害者福祉施設の空きスペースを活用したスポーツ教室」の取組では、自力移動が困難な重度の障害者もスポーツに親しむことができた。また、スポーツをすることができなくてもスポーツを見て楽しんだり、その場に集う楽しさを感じる方が増えた。しかし、他の施設との交流を兼ねた発表会など、移動が伴う取組については、移動手段の確保とともに施設職員の負担が大きいことが課題となった。

事業を継続することで、協力してくれた競技団体が自主的に障害者を対象とした取組を展開したり、地域の社会福祉協議会と共催したイベントで障害者の方を講師に迎え講演を行うなど、取組に広がりが見られた。また、実行委員会で情報交換を行うことで互いの事業へ参加するなど横断的な繋がりができている。

この事業を通して、特別支援学校の教職員やスポーツ推進委員、障がい者スポーツ指導員、施設職員の障害者スポーツの理解が深まり、各々が取組の成果を実感するとともに、取組への協力・支援体制が充実している。また、それぞれの所属において、独自で新たな取組が展開されるなど、広がりを見せている。

今後は、既存事業と関連づけながら本事業での取組を継続、充実させ、その成果を県内に広く普及・啓発することにより、障害のある方が身近な地域で安心してスポーツを楽しむことができる機会を提供するとともに、関係者のネットワークのさらなる強化を図り、障害者のスポーツ参加の拡大と障害の有無に関わらず誰もが一緒に活動することができる共生社会の実現につなげたい。

参 考

高知県障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会設置要綱

(目的)

第1条 県内において障害者がスポーツに関心を寄せ、継続的にスポーツ活動に参加できる機会の拡充を図るための実践研究をより効果的に実施し、障害者スポーツの普及モデルとして着実に成果を残すため、スポーツ関係者や福祉関係者、学識経験者などで構成する実行委員会を開催し、課題の把握と解決に向けた取組の検討や実践研究の進捗管理、事業内容の検証等を行うとともに、その成果を広く普及することを目的に、「障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(内容)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 課題の把握と解決に向けた取組の検討。（移動手段に関する研究。）
- (2) 実践研究の進捗管理。
- (3) 実践研究の成果等の検証。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって構成し、別表に掲げるもの（以下「委員」という。）をもって組織する。

- 2 委員は、高知県知事が次の各号に掲げる者のうちから、委嘱又は任命する。
 - (1) 学識経験者
 - (2) 実践団体関係者
 - (3) 協力団体関係者
 - (4) 県内スポーツ団体関係者

(任期)

第4条 委員の任期は、本事業が完了するまでの期間とする。ただし、委員に変更があった場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第5条 委員会の委員長及び副委員長は、各1名とし、委員の互選とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、高知県文化体育スポーツ部スポーツ課長が招集する。

- 2 委員会の会議の議長は、委員長が務める。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、高知県文化体育スポーツ部スポーツ課が行う。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

(附則)

この要綱は、令和元年6月10日から施行する。

高知県障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会委員名簿

役 職	氏 名	所 属
委 員	常行 泰子	国立大学法人高知大学
	北村 大河	高知県社会福祉協議会
	武市 光徳	NPO法人まほろばクラブ南国
	田井 直子	NPO法人総合クラブとき
	牧野 秀男	NPO法人くぼかわスポーツクラブ
	池添 和博	高知県立山田特別支援学校
	土居 真一郎	高知県立日高特別支援学校
	濱田 邦彦	高知県立高知若草特別支援学校
	正岡 佳代	高知県立中村特別支援学校
	島崎 伸一	高知県スポーツ推進委員連絡協議会
	小松 むつ子	高知県レクリエーション協会